

下川町流雪溝除排雪ボランティア

2月13日 町内各所



アイスキャンドルミュージアムに向けた、通行者の安全確保と環境整備を目的に除排雪のボランティアが行われました。下川町流雪溝除排雪ボランティア実行委員会が主催し、国道、道道、町道の約3kmの区間を、しもかわ観光協会や町建設業者、サングラム建設事業者、旭川建設管理部、旭川開発建設部など町内外様々な団体が参加する中除排雪作業が行われました。



冬季防災セミナー

2月8日 バスターミナル



町内の防災に対する意識を深めることを目的に、HBCウェザーセンターの気象キャスターの森山知洋氏に防災に関して講演していただきました。ホワイトアウトや冬の大地震などの冬特有の災害の危険を述べていただくとともに、交通や冬の備え、情報の使い方など被害にあった際の対処方法などを指摘していただきました。参加者は冬季の災害の危険性を再確認するとともに、災害に備えることの大切さを学びました。

幼児センター 豆まき

2月1日 幼児センター



毎年恒例の豆まきが幼児センターで行われました。園庭から赤鬼と青鬼が現れると、園児達は「鬼は外、福は内」と大きな声で豆を投げ、怖がりながらも先生達と協力して鬼を退治しました。

「未来世代の幸せを育む これからの教育について」講演会

1月21日 ハピネス



札幌新陽高校の校長である荒井優氏を講師に迎え、これからの教育に関して講演をいただきました。新陽高校では、主体性を育むことを目的に、生徒の興味があったりやりたいことに関するテーマを、生徒自身が問題解決のために主体的に考える授業を展開する「探究コース」を設置しています。「本気で挑戦」を新陽高校のキャッチフレーズに掲げ、これからの教育において、探究コースのような生徒の主体性を育む教育の大切さを話していただきました。

みんな考えよう「人権擁護」

お問い合わせ 保健福祉課 福祉・子育て支援グループ ☎4-2511内線122 ☆4-251103



●人権擁護について考えてみましょう。

みなさんは「人権」という言葉を一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。「堅苦しい」、「難しい」、「自分たちの生活にあまり関係なさそう」などと思う人も多いのではないのでしょうか。人権とは「全ての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」であり「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」。みなさんにとってとても身近で大切なことです。

●相談しよう人権擁護委員

人権問題はみなさんにとってとても身近な問題です。女性、子ども、高齢者、障がいのある人、異文化、外国人などに対して、差別や不平等がまだまだ存在しています。

このような人権を守るために、法務大臣から委嘱を受け、人権擁護委員が各地域に配置され、身近な人権問題の相談を受け付けています。

人権が守られていないなと感じたらまずは相談しましょう。

下川町の人権擁護委員は次の3人です。

- ・筒淵忠雄氏
・原田千鶴子氏
・品地和彦氏

●全国中学生人権作文コンテスト

作文を通し、人権の大切さへの理解を深めることを目的に法務省及び全国人権擁護委員連合会が主催する「全国中学生人権作文コンテスト」で、下川中学生の中山和さん、小林花綾さん、清水雪乃さん、江口莉都さん4人が入賞しました。中山さんは旭川地方大会優秀賞、小林さんは旭川地方大会奨励賞、清水さんと江口さんは名寄協議会優良賞に選ばれました。



「話し方講座、聞き方講座」 「人生のピークを90代に持っていく」講演会

2月5日 ハピネス



株式会社イーズ代表取締役枝廣淳子氏に「話し方講座と聞き方講座」と、同日夜からは「人生のピークを90代にもっていく」講演会の2つの講演をしていただきました。話し方講座と聞き方講座では、コミュニケーションの基本となる「聞く」「伝える」方法について話していただきました。話を論理的に組み立てることや感情をコントロールすることなどの話の「コツ」を学びながら「聞く」こと、「伝える」ことの大切さやむずかしさを学びました。

人生のピークを90代に持っていく講演会では、仕事や子育てを終えたあともやりたいことをやりつづけ充実した人生を送り、幸せであると感ずることのできる「幸福寿命」を伸ばすことの大切さについて話していただきました。